



カメラをもつ私に、何か話しかけたような男の子、年下の子の面倒をみてやっている女の子。どこにいても、屈託のない無邪気で明るい子供たちの表情を見ると心癒される。

この日、マニラの南東、車で約4時間のケソン州にある発電所を訪問し、その帰途に見た風景である。サンダル履き通学の子供もいるというのがフィリピンらしさでもある。

このすぐそばにある小学校から出てきた子供たちは、それぞれ楽しそうに揃っての帰宅である。徒歩通学であろうが、フィリピン名物のトライスクルという乗りものも画面には登場する。

フィリピンでは、7歳から12歳までが小学生（プライマリ）13歳から17歳までが中学生（セコンダリィ）、そして大学である。小学校までは義務教育であるが、中学校までは学費無料である。

だが、義務教育でさえ、まともに受けられない子供達がいることが、この国の抱える深刻な問題でもある。上の子供達は、学校に行かず家庭を助け、下の子供達だけが学校に行くケースも多い。

育てる子供の数が多過ぎる事も問題であり、人口抑制策が大きな課題でもある。

この画面に収まった子供たちは、それなりに小ざれいな服装であり、家庭はそれほど窮乏していないように見える。

貧しくても、貧しくなくても、これら子供たちに、フィリピンの未来が全て託されているのだ。